



カエルは天気の良い日はどこにいるの

カエルは乾燥が苦手

カエルは、さわると、たいてい、体がぬれていて、ぬめっとした感じがします。これは、皮ふからいつもねん液を出して、皮ふがかかわないようにしているためです。

なぜかという、カエルは肺で呼吸していますが、それだけでは足りなくて、皮ふからも呼吸しています。呼吸するときは、必ず、体の中に、水にとけた形で空気(酸素)を取りこむため、皮ふは水気でぬれていないとこまるのです。

天気の良い日は湿った所です

天気がよくて空気がかわいているときは、それぞれ種類によってちがいますが、カエルは、湿った所にかくれています。たとえば、地上で生活しているヒキガエルは、湿った土の中、アマガエルなど木や草の上でくらすカエルは、湿り気の多い木の葉のかげなど、水辺でくらすトノサマガエルは、池の水の中などに、それぞれいます。

なぜ、カエルは皮ふで呼吸するか

地球上にバクテリアのような生き物が現れてから、今いるようなさまざまな動物になるまでの進化の歴史を考えてみましょう。カエルは、水の中でくらす動物が、地上でくらすように進化した、最初の動物の仲間になります。そのため、子どものころは、水中でえらで呼吸していますが、おとなになると、地上で肺呼吸をします。人間やゾウ、イヌなどと比べると、カエルの肺のしくみは、まだあまり発達していないため、皮ふで呼吸をおぎなっています。(監修・今泉 忠明)

